View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
brought to you by CORE
provided by Kwansei Gakuin University Repository

2015年
1月9日
金曜日

4年間の学生生活をふりかえる
―自己分析は社会人としての第一歩―

利光　強　経済学部長

昨年も同じような内容のことを書きましたが、学生諸君にとって4年間の学生生活はとても短かったのではないかと思います。入学して間もなくの頃は、初めて体験することばかりで、右往左往しているうちに定期試験を迎え、夏休みでやっと一息。秋からどうにか学生生活をエンジョイしはじめ、2年生の秋学期からゼミナール活動。少しばかり経済や経済学に興味を持ったところで、3年生も終了し、就職活動に突入。やっと内定をもらったと思ったら、卒業研究論文に悪戦苦闘し、単位数を気にしながら、卒業。めまぐるしい4年間であったと思います。

卒業を迎える今、自分がすごしてきた学生生活の4年間を振り返ってみてください。バイトばかりの4年間では、少しさびしいと思いませんか。あるいは、「学生生活の思い出はシューカツです」ということでは、あまりにも貧相な学生生活ですね。大学で確かな学びができたのか。社会に役に立つような力を身につけることができたのか。ぜひ、自己分析をしてください。

短い4年間では経済や経済学のことを十分に学べなかったと思います。ただ、社会や経済についてわずかながらでも興味や関心を持ち、考えた経験が社会に出てから、きっと役に立つときがくると思います。

さて、経済学部では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー、略してDP）に基づいて、卒業必要単位を取得したものに学士号を授与します。そのDPに記されている基準を自分が果たして満たしているのか、どうか、社会へ出るまえに、きちんと判定をする必要があります。それが、社会人としての第一歩であると考えます。自分がどのような人間であるかを分析できていれば、社会に出てからも恐れることはありません。

社会に出てからも、学びなおしの機会はいくらでもあります。そしてまた、「卒業したので、関西学院大学と縁が切れた」ということはありません。皆さんは関西学院大学経済学部の卒業生として、これからの長い人生を送っていくことになります。その長い人生を送るなかで、大学のモットーであるMastery for Service（奉仕のための練達）を忘れないでください。それは、世界市民として社会のために何らかの形で貢献をしなければならないというmissionを意味しています。そのための学生生活であったことを振り返り、自身の4年間を総括してください。■